

ヴェネツィアにおける海外小麦の輸入取引

—1539, 40年— (2)

齊藤寛海

(本誌同号からの続き：1回分の規定紙数を超過したので、このように分割掲載されることになった)

[A・13] 1539・1・20, ヴォーロス, ジャンバッティスタ・[ダ・]ソマイアおよび
ピエロ・ポマロ (256t-258t)

(256t) この[手紙]と一緒に、雇船契約書の写しがありますが、そこでは、[船は]リヴォルノ向けと書かれ、[その持主は]ラグーザ人の名儀になっております。これは、起るかも知れないトルコとのあらゆる紛糾を避けるために偽装して[書いた]ものですから、もし、ことが起きた時には、この雇船契約書を見せてやることのできるわけです。この船の船長は、公式的には彼[ラグーザ人]と契約したことになっているのみならず、船は上記のラグーザ人オルサットのものであり、私に雇用されてそちらに行き、リヴォルノ向けに[小麦を]積み込むものと書いてあります。ですから、もし、ことが起きたときには、船のためになることなら何なりともお役に立ててください。その内容については、彼、つまりマッフィオ・ベルナルディ殿と私とが、次のことを確認することに、私は同意しました。つまり、上記の雇船契約書は、リヴォルノ向けとなっているところを、ヴェネツィア向けと読み換え、さらにリヴォルノの[単位である]100サッコ当り55ドゥカートとなっているところを、ヴェネツィアの[単位である]100スタイオ当り55ドゥカート、但し1ドゥカート・ドーロが当地の小額貨幣6リラ4ソルドと換算されるものとしますが、と読み換えることを除けば、この雇船契約書の残りの内容は、全て真正であり、どの部分も遵守すべきものだということを……。

(257r) ですから、この船が着きましたら、できるだけ早く荷積みをするよう、念入りに配慮してください。また、貴方がたに代わって私が[ベルナルディに]約束したように、そちらの土地の人々を雇って村々に行かせ、一刻も早く荷車を海岸まで引いて来させるようにしてください。小麦が海岸に着いたら、貴方がたにとっては確かに骨の折れる難儀なことでしょうが、とにかく早く急いで船に積み、遅れることのないようにしてください。船を早く当地に送り返すことが、どんなに重要なことか考えてください。貴方がたが、昼も夜もこのことだけを考えていることを、念じております。繰り返しになりますが、これまで以上に急いで、早く送り返すようにしてください。というのは、[小麦の販売に好都合な]時期は短く、次の収穫が6月だからです。ですから、こちらに小麦の着くのが1ヶ月早いか遅いかで、あるいはたったの1週間の違いで、大金を得るか、あるいはそれを失うのみならず、諸々の

面倒 [を引き起こすこと] になります。また、この [手紙] で先にいいましたように、4月一杯あるいは5月半ばまでに小麦を引き渡すという交渉を、シニョーリアとするつもりです。ある期限までに引き渡すという取り決めをしてしまうと、その時まで引き渡さなければ、確認書にしたがって、スタイオ当り20ソルドの罰金を支払うことになることをご承知おきください。このように、船を早く出してくださることが望ましく、また、そうすること以外に期待を抱いてはなりません。この件では、利益は、購入することにあるのではなく、早くやるということのみにかかっているのですから。船員 [船長の書き誤りか]、舵手、書記、船員との間に、つまり全員との間に、積載量については合意ができています。……貴方がたから小麦を受け取ることを、彼らに義務づけることはできませんでしたので、最善を尽くしてください。……雇船契約書では、停泊期間を30日としておきましたが、これはまことに長過ぎます。都合を考えて手を広げておいたのですから、この停泊期間を当てにしてはなりません。とにかく、早く送り出してください。

(257t) ヴィンチェンツォ・デッラ・マーノを船長とする小船についてですが、その雇船契約書は、大船の雇船契約書の中に、厳密に [それと一致する形で] 含まれています。この [両船の] 雇船契約書にみられるように、もし、貴方がたそれに積み込まない場合でも、空荷に対して [雇船料を] 支払うことになっています。ですから……空荷の分に支払うことのないように細心の注意をし、我々の名誉を守ってください。……この船がヴェネツィア船であるということで、紛糾が生じることの決してないように注意し、……引き止められて、ユダヤ人によって見破られ、告発されることのないように、我々の船員が上陸しないように、テッサロニキには行かないように、取り計ってください。船を当地に送り返す際には、雇船契約書と一致するように、リヴォルノ向けという偽の積荷証書を作成させてください。それから、当地に帰港して、全ての小麦を私に引き渡すという、真正の証書を作成してください。その証書では、勘定に関しては何も記さないでください。というのは、貴方がたは、ベルナルディヤペラのソマイアの勘定として記すのではないかと思うのですが、当地では、この取引は、私の名義でしておりますので。

(258r) 私は、ニッコロ・ダントーニオを船長とするこの大船に、貴方がたに引き渡すための、52荷の雑貨と紙とを積み込みましたが……、その内訳は44荷の紙と……8荷の雑貨とです。……

この [手紙] と一緒に、積荷証書を送ります。その [積荷の] 送り状にみられるように…… [この積荷の分の] 雇船料を支払って、それを受け取ってください。貴方がたが我々に要求してきた雑貨の一部を送ります。また、ガラス [製品] を荷造りするように注文しました。まだ、それは陸に積み残してありますが、もし、今晚この船が出航しないことになりましたら、[これも] 積んでくれるようにと頼むつもりです……。多くの商品を……取揃えることができませんでしたが、[取揃えるための] 時間がとても短かったので、用意させることができませんでした……。注文書 [にある商品] を、貴方がたが望んでいるようには、完全に調達することができなかつたことをお許しください。ガラス [製品] が陸に残ることになりましたら、フランキーニが当地から出航させるコレーゼの船で送ります。他の商品も、

手に入れることができましたら、何とかしてラグーザ経由で送ります。

(258t) 私は、貴方がたがその船をリヴォルノに送らなければならないと書いた文面の、偽の手紙を何通か、貴方がたに書きました。

[A・14] 1539・3・12, ベラ, グッリエルモ・ダ・ソマイア (300r)

(300r) ラッフアェッコが [ナポリで雇用した船について] 作成した雇船契約書をみますと、船長が船の積荷の三分の一を取り、雇船料はカッロ当り9ドゥカート・ドーロ・イン・オーロ・ラルゴとなっていますが、このドゥカートは9枚で普通のドゥカートの11枚であり、またこの1カッロはようやく22スタイオでしかありませんので、[当地の単位に換算すれば] 100スタイオあたり50ドゥカートということになります。私の方は、ベルナルディから55 [ドゥカート] で雇用しています。ラッフアェッコがしたのと比べて、私が、それほど多く支払ったわけではないことがお分かりでしょう。

[A・15] 1539・3・18, ベラ, グッリエルモ・ダ・ソマイア (304r)

(304r) ベルナルディの [船] は、先月17日にカネーア [ヴェネツィア領クレタの海港都市] にあり、その晩ヴォーロスに向けて出港しました……。

[A・16] 1539・3・23, ヴォーロス, ジャンパッティスタ・ダ・ソマイアおよびピエロ・ボマロ (308t)

(308t) 貴方がたのところへ送り出した、ベルナルディの2隻の船……についてのニュースが入りました。先月16日にはカネーアにいたということですので、同月25日にはそちらに着いたものと判断しています。

そちらの港に各地から船が出向いて行ったことを聞き、それらに積み込む小麦が不足してしまうのではないかと思います。まず、当地の船が3隻、つまりベルナルディの2隻とフランキーニの1隻。フェッラーラ公のが1隻。彼の代理人が雇ったローザ号。以上で計5隻。バゴロ・ディ・ニコロ [の／が雇用した船] はさておき、ラッフアェッコがナポリとシチリアとから [送った船が] 3隻。……ベラからののが2隻、つまりジェリーナ号とサルヴィアーティの船。以上で計10隻。これには、ルカ・ダンニョロの船とパラモータ号とチチーニャ号とを除いてあります。おそらく、私の知らない他の船もあるでしょうし、さらにラグーザからの大船が2隻、つまり大司教の勘定で行く船と、コムーネによる船とがあります。そうなることを信じていますが、貴方がたが [これらの船の] 全てに積荷 [=小麦] を与えたら、利益と名誉と皆の感謝とを手に入れることでしょ。……貴方がたに資金が不足しているのだから、その外の困難はないであろうと思います。……

ASF, Libri di commercio, n.182

[A・17] 1540・5・15, フィレンツェ, ジロラーモ・ダ・ソマイア (20r・t)

(20r) ベルナルディの船は、来月8日以前には、[当地に] 着かないでしょう。というのは、ポーマロが私に、4月中にそれを出航させるので、おそらく5月8日までには[当地に] 到着するであろうと、書いてきたからです。しかし、当地への到着は、そんなに早くはなりません。もし、(20t) 来月15日までに到着するなら、まだ、それをうまく販売することのできる時節に間に合うのですが……。

[A・18] 1540・5・26, ペラ, グッリエルモ・ダ・ソマイア (28r)

(28r) 昨日、[ラグーザにいる] ザノビ・ベルトリから、ヴォーロスからの先月27日付けの[手紙]が、特別仕立てのブリガンティーンによって届けられました。それは、ベルナルディの船が、[先月] 24日に出港したと述べています……。

[A・19] 1540・5・29, フィレンツェ, ジロラーモ・ダ・ソマイア (30t)

(30t) ヴォーロスからの、先月28日付けの[手紙]を落手。ベルナルディの船は、24日に出港。積荷は、約4232キロ。まもなく到着するでしょう。

[A・20] 1540・6・5, フィレンツェ, ジロラーモ・ダ・ソマイア (32t-33r)

(32t) [今月] 2日に、ベルナルディの船が、小麦を積んで当地に到着しました。4日には、コレーゼの[船]が、小麦を積んで到着しました。ベルナルディの船が[貴方がたの企業] 集団の勘定において私に引き渡すべきものは、貴方がたの指示によれば、1875キロの小麦ですし、コレーゼの船からは2134キロです。既に、ベルナルディの船は、マラモッコ港[ヴェネツィアの南のリド島にある港]に入港しており、本日当地に、1500スタイオが、献呈の儀式とともに陸揚げされましたが、残り[の部分]は、明朝入って来るでしょう。積荷証書にしたがって、[積荷についての点検事項の]全部を書き送りますので、お待ちください。全てについて、詳細にお知らせします。これらの船の到着は、少々遅過ぎました。新しい収穫と[ヴェネツィアとトルコとの]平和とが、[手紙の中で] 申上げたような損害をそれらにもたらします。[麦価は]先週下落し、今[週]も同様でした。ミヌート小麦は[スタイオ当り] 9リラ15[ソルド]、グロッソ小麦は8リラです。しかし、売る者は誰もおらず、また買う者もいません。皆、迷っています。というのは、収穫がまだ終わっていないので、人々は、どうしたらよいのか分からないからです。各地からの報せが様々ですので、どうしなればならないのか、はっきりした判断が下せないのです。

私は、約4,000ドゥカートに達する雇船料[分の金額]を、私に[小麦の代金として] 支払う人を見つけたら、その分[の小麦]を来週売るつもりです。その後は、(33r) それを売ろうか売るまいか、私が妥当と判断するところにしたがって、思案しながらやっっていこうと思います。これが、私の現在の考えです。……貴方がたも、この件についてのご意見を是非お知らせください……。

[A・21] 1540・6・19, フィレンツェ, ジロラーモ・ダ・ソマイア (36r)

(36r) 貴方がたは、小麦を積んだ全ての船が〔当地に〕到着したことを〔既に〕ご存じです。全部が荷降しされた後で、騒ぎが起きました。〔計量に〕大変な違いがあったのです。ベルナルディの大船では、1キロは、2スタジオから11リブラを引いたものとして〔計量されて〕いますが、〔ベルナルディの〕小船では、〔1キロは〕2スタジオから3リブラを引いたものとして〔計量されて〕おり、コレーゼの船では、〔1キロは〕2スタジオに8リブラを足したものとして〔計量されて〕います。したがって、計量の仕方が多いのと少ないのとでは、8%も違っていることとなります。実際、このベルナルディの大船では、非常に少なめに計量されていますが、積荷監視人をはじめ全員が、これは、ヴォーロスで正しく計量させることのできなかった、ポーマロのせいだといっています。これは、全て〔貴方がたの企業〕集団の損害となります。

マッフィオ〔・ベルナルディ〕殿は、嘆いて悪魔、いや、それよりももっと酷くなりました。……もっと積めるはずだったのに積まなかった分、つまり、ポーマロが積まなければならなかった分が、2隻の船で〔合計〕1,000スタジオも空荷になったわけですが、この分の雇船料を、〔貴方がたの代理人である〕私が彼に支払うことを要求する、といいました。この〔理由〕に基づいて、私に、550ドゥカートを要求しています。今までに、私は彼に2,700ドゥカートを支払っているのですが、約100ドゥカートの領収証以外は、まだそれももらっていません。この550ドゥカートに加えて、彼は、さらになにがしかを要求しています。私にいうところでは、彼は、訴訟にもちこみたくないのに、共通の友人を間に立てて、示談でことを解決したいとのこと。この件については、まず貴方がたにお話しした上でなければ、対処したくありませんので、私がどのようにしたらいいのかをおっしゃってください。実際、もし、示談にしまわなければ、訴訟になるのは目に見えています。というのは、彼は、金の問題となると、人の見境がつかなくなるような男だからです。私は、このことについて貴方がたに書き送るから、ある程度の時間をくれと頼んでおりますので、貴方がたのお気持ちを必ず知らせてください。

[A・22] 1540・6・26, フィレンツェ, ジロラーモ・ダ・ソマイア (37t)

(37t) 〔雇船契約書に記入された〕雇船料は、〔その契約書を呈示された時には〕ほとんど小切手〔を呈示された場合〕のように〔支払わなければならない〕ので、その額を〔現金で〕手に入れるまで、それ〔小麦〕を売っていくつもりです。残りについては、イタリア各地における価格の動きを見較べつつ、好機を窺いながら、日を追って売っていくつもりです。

[A・23] 1540・7・3, フィレンツェ, ジロラーモ・ダ・ソマイア (42r)

(42r) コレーゼの船は、一粒だに不足しておりません。ベルナルディの船は、大量に不足しております。騒ぎは、他の船よりも10%から11%も少ないところから起きています。これらの〔船の〕書記どもは、皆、無能です。……回復する手段はありません。……ベルナルディの件で、貴方がたが私に書いてきたことを読みました。私は、適宜、ペラに書き送り、〔ペラにいる〕彼らと協力して解決することにしましょう。このマッフィオは、大変恐るべ

き男で、彼と同じように振る舞うことはとてもできません。

[A・24] 1540・7・3, ベラ, グッリエルモ・ダ・ソマイア (43r-45r)

(43r) 騒ぎというのは、大変な違いが発見されたからです。ベルナルディの船では、1キロは2スタジオから11リブラを引いたものですが、コレーゼの船では、[1キロは]2スタジオに8リブラを足したものとなっています。何という違いかお分かりでしょう。ベルナルディの船は5%ないしそれ以上の不足ですが、コレーゼの船は一粒だに不足しておりません。……。

ベルナルディには、雇船料を直ちに現金で支払う必要があります。というのは、彼は店を畳んでしまい、とにもかくにも、私が最後の1ドゥカートまで支払うことを望んでいるからです。ですから、私は、小麦を売りながら、[雇船料を]支払っていかねばなりません。

最初の商いは、[スタジオあたり]7リラ5[ソルド]でしたが、その後、値上りが続いて、今日は8リラ15[ソルド]です。私は、5,500から6,000スタジオ[量の小麦]を様々な値段で売りました。ジロラーモが、成り行きで売れと書いてきましたので、できるだけ有利に、残りを売り尽くすつもりです。ベルナルディは、彼の[持分の小麦]を、全部売ってしまいました。……

雇船料は、昨年のような[法外な]価格にはならないと、我々は思っています。……平和になっていますので、どの地方でも、船は不足しないでしょう。……

(45r) 偉大なるマッフィオ[・ベルナルディ]殿は、これまでに聞いたこともない、大変素晴らしい厄介事をくださいました。彼の船は、2隻とも、船腹一杯に積んでこなかったのだから、その空荷の分の雇船料を、大船の800スタジオ分と、小船の200スタジオ分とを、私が彼に支払えというのです。

[A・25] 1540・7・4, ヴォーロス, ジャンパッティスタ・ダ・ソマイアおよびピエロ・ボマロ (46t-47r)

(46t) ベルナルディの大船は、約600スタジオ不足していますが、ベルナルディの船の小船とコレーゼ船とは、一粒だに不足していません。

(47r) 貴方がたは、この小麦から、お望みになっていたような結果を得ることができなくなり、私は、貴方がたのために心を痛めております。……我慢しなければなりません。

[A・26] 1540・7・10, フィレンツェ, ジロラーモ・ダ・ソマイア (48t)

(48t) ヴォーロスからの先月1日付けの手紙を、そこからやってきたザネット・ボマロから、受け取りました。全ての船を出航させた旨、書いてあります。ジャンパッティスタは、マルコ・ディ・ルスコの船に対して、小麦が[キロあたり]80アスプリに値上りしてしまったので、小麦を何も積まずに出航する許可を与えた、と書いてあります。

ジャンパッティスタとボマロとは、あちこちの全ての荷積港から全ての船が出港したので、テッサロニキに移り、そこで、ベラからもらう[グッリエルモからの手紙の指示]にしたが

って、[ペラに] 行くか、それともその土地に留めるかを決めるということです。ジャンパッティスタは、とても元気です。小麦の輸出は、[現地の] 領主の命令と、不作とが原因で、停止になりました。

[A・27] 1540・7・24, ペラ, グッリエルモ・ダ・ソマイア (56r)

(56r) ベルナルディの船とコレゼの船との小麦は、その四分の三ないしそれ以上が、売却されてしまいました。[スタイオあたり] 7リラ5ソルド, 7リラ10ソルド, 8リラ, 8リラ1/2 [10ソルド], 9リラ, というように様々な値段で。

その代金を徴収しながら、[ベルナルディの大小の2隻の船とコレゼの船1隻, 合計3隻に対して, 貴方がたが支払うべき] 6,000ドゥカートに達する雇船料と、諸経費とを支払いました。金に関する事柄は、フィレンツェのジロラーモに報告することを欠かしておりませんし、販売に関して知らせるべきことがあれば、口を遂って報告しています。

[A・28] 1540・8・27, フィレンツェ, ジロラーモ・ダ・ソマイア (67t)

(67t) その後、最後の使いにもたせて貴方がたに送った1,900スクードが、届いていることと思いますが、……それは、小麦全部の売却代金のうち、[貴方がたに] おおよそ残ったもの、およびこれから残るもの [の合計] であります。それが僅かな [ものでしかない] ことにお気づきのことと思えます。いつもこんな薄利でやっているわけではありません。是非とも我慢してください。[そちらで] 使うことのできない [金] がありましたら、[その分を] 私に送り返してください。別口でもうけて、お返ししますから……。

(68r) ナポリのラッファエッロが、パオロ・ディ・ニコロの船の小麦の勘定について不平をいっている件についてですが、愚痴をこぼしているだけの [内容の], 彼からの手紙を落手しました。私は、雇船契約書に書いてあるとおりに、その船の大鍋 [食費のことか] の代金として、船長に4ドゥカート・ドーロ・イン・オーロ・ラルゴを支払ったのですが、彼が私に書いてきたところでは、[船が] ナポリを出港する前に、彼がそれを支払ってあるというのです。大喰いの船長は、雇船契約書に明記してあるから支払ってもらわなければ困ると、[私にそれを] 重ねて要求したというわけです。[既に支払ってあるということを知らなかった] 私は、支払わずに済ますことはできないと思いました。ですから、不平をいう筋合のものではないと思えます。しかし、この船の経費は多過ぎると貴方がたはおっしゃっていますが、そんなに法外なものではありません。貴方がたは、他の経費のこと、つまり空荷分を全額支払った分の、550ドゥカートないしはそれ以上に達する雇船料、また、手紙を運んでもらうために特別に仕立てたブリガンティーンおよび飛脚の費用、おそらく80スクード位にはなるベルナルディおよびオルサットとの訴訟の費用、さらにこれとは別に、パオロ・ディ・ニコロの [販売した小麦の値段] は5ないし5 1/2[%] の下落で済んだのに、[貴方がたの] 小麦は8ないし9%下落したこと [da misura a peso mulino の意味不明], [小麦が蒸れて] 熱をもつことがないように、8日毎に [袋を] 裏返しさせている大倉庫の保管料、その他のことをおっしゃいます。こうしたことは、おそらく、貴方がたには怪しか

らぬことにみえるのでしょうが、支払わなければならないものを支払っただけのことで、それ以上にはビター文支払っておりません。

貴方がたは、この〔勘定〕には〔不正が〕あるに違いないと思込んでいるようですが、その〔不正の〕臭いが、これらの私の勘定から臭ってこない場合には、親愛なるジロラーモ殿よ、貴方がたは本当に用心深い方々ですね、と申上げること以外、申上げるべきことはありません。そして、貴方がたにとって、私よりも都合が良いと思われる方のところに、遠慮なさらずに、向かわれることをお勧めいたします。

[A・29] 1540・9・1, ベラ, グッリエルモ・ダ・ソマイア (75t-77r)

(75t) もし、ピリオッタの船がアンコーナでうまく売れるのであれば、貴方がたのために、とても嬉しく思います。……

私は、値段が上下するのをみながら好機を窺うことにし、売りを控えることによって、常にもっと高い値段で売ってきました。穀物役人たちが、製粉所に引き渡すように、あるいは、製粉所に持ち込む人に売るように強制しなかったら、4,000スタジオ以上を倉庫に残しておいたことでしょう。……最後のものを、昨日、スタジオ当り12リラ4ソルド・ディ・ピッチョリで売りました。……最初に、〔スタジオ当り〕7リラ5ソルドで売り始め、最後のものは、上記のように12リラ4ソルドで売ったわけです。

(76t) 私は、既に二通の手紙で、ペルナルディが私との間に訴訟を起こし、……私を非常に悩ませている、ということをお伝えしました。彼が、自分の方が間違っていることを自覚しているのかどうか、考えてみてください。彼は不満ばかりいっておいりましたので、私は、彼をジロラーモ・ダ・ムリーノ殿の所に行くようにしました。というのは、彼との間で係争になれば、事を難しくしてしまうだけのこうした弁護人たちでは、彼は24票のうち18を取り、私は最善でも6だということを彼は知っていますので、私は、係争に敗けるのではないかと危惧するからです。〔このような事情〕ですから、貴方がたは、そちらで、彼の〔そちらにある〕資産を利用〔して彼にいうことをきかせようと〕したり、彼に説明して、ひとまず納得させることを考えておいてください。彼は、空荷分の1,000スタジオ、つまり大船の800スタジオ分と小〔船〕の200〔スタジオ〕分〔の雇船料〕、計550ドゥカートを要求しています。世の中の常識では、もし支払うべきだとしても、支払わなければならないのは〔空荷分の〕半分であり、(77r) 残りの半分は彼の〔負担すべき〕分ということになります。さらに、積荷監視人には25ドゥカートを〔既に〕支払ってあるのですが、その全額を私に支払えと要求し、〔私の言い分を〕全く聞こうとはしません。また、そちらおよびヴォーロスに送った飛脚とブリガンティーンとについても、〔その手配をしたラグーザにいる〕ザノビは、その勘定として40 1/2ドゥカート・ドーロ・イン・オーロ・ラルゴを私〔を借り方として彼の帳簿〕に記入しており、また、そのことで、私は当地で27ドゥカートを現金で支払っているのですが、これについても全額を私が負担すべきだと要求しています。私は、当然のことながら、それを彼の側の〔勘定に記入すべき〕ものと考えているので、こうしたもの全部を、彼の側の小麦勘定につけておいてください。

空荷分に支払う550ドゥカートについては、私が勘定に記入する他の取引と同様に、そのように〔ベルナルディの勘定につけて〕してください。というのは、当地では、どうにもすることができませんので。まことに、ここでは、彼との件については、役に立つような規定がありませんから、そちらにおいて、何とか善処するように取り計らってください。こいつは、非人間的な男ですので、私が彼に対しておこなった仕事に対しても、2,000スクードは支払ってくれないでしょう。現在は、私に対して酷い訴訟を起こし、私がこれまでずっと敵でもあったかのようにしか、私のことを扱っておりません。

[A・30] 1540・9・4, フィレンツェ, ジロラーモ・ダ・ソマイア (80r)

(80r) [ベルナルディは] 彼の大船を、羊毛と羊皮とを当地に運んでくるように、ペラに送り出しました……。

[A・31] 1540・8・16, ペラ, ピエロ・ポマロ (86r・t)

(86r) [ベルナルディは] 毎朝、私を宮殿〔法廷〕に押し込めます。……私は、この係争で疲れ果ててしまいました。神様が、彼の手から私を解放してくださいますように。これまで、彼によって貧窮に陥れられなかったとしても、今度は、全てを奪われてしまうかもしれません。……

(86t) ベルナルディの船の書記は、貴方がたから〔約束された〕黄金色の布地の衣服をまだもらっていないので、といて、貴方がたの勘定で30スタイオの小麦をもらいたい、と私に要求しました。小麦は私のものではないので〔私の一存ではやることはできない〕と色々頑張ってみたところ、私を宮殿〔法廷〕に出頭させ、貴方がたの代理人である私を告訴しました。〔出頭回数が〕少なかったので大変面倒でしたが、貴方がたに代わって30スタイオの小麦をやることをしないで、彼の手から解放されるのには、骨を折りました。結局、私は解放されました。こういうことですので、彼がそちらに行くことがありましたら、貴方がたに対して〔その代理人である〕私を相手取っておこした面倒の、お礼をしてやってください。

[A・32] 1540・9・25, フィレンツェ, ジロラーモ・ダ・ソマイア (95r)

(95r,) この〔手紙〕と一緒に、コレーゼの船で運ばれてきた小麦の販売の勘定書をお送りします……。

さらに、ベルナルディの大船と小船とから受け取った小麦の勘定書も、一緒にお送りします。それからの利潤は、経費を全て控除して、そこにみられるように、234リラ14〔ソルド〕9〔デナロ〕・ディ・グロッツです。それを点検し、〔帳簿に〕整理しておいてください。……この2隻の船の経費は、この商いにとって大変な損害となりましたが、我々は外に仕方ありませんでした。

[A・33] 1540・10・2, フィレンツェ, ジロラーモ・ダ・ソマイア (97r)

(97r) ベルナルディの大船は、コンスタンティノーブルに向けて、おそらく今晚、でなければ2日以内に出航するでしょう。カンディーアに寄港する予定ですが、そこで和平が妨げられたと聞いたら、続航しないかも知れませんが、和平が約束されたと聞いたら、コンスタンティノーブルに直航するでしょう。また、小[船]を、同様に、アレクサンドリアに向けて出航させましたが、その積荷は、銅、錫、板金、硫黄および類似の品々です。

[A・34] 1540・10・2, ベラ, グッリエルモ・ダ・ソマイア (110r)

(110r) 同様に、ベルナルディの2隻の船の小麦の勘定書の写しを[この手紙と一緒に]お送りしますが、その利潤は、234リラ14[ソルド]9[デナロ]・ディ・グロッシであり、その全部をフィレンツェのジローラモに送りました……。

ベルナルディの勘定の中には、幾つかの勘定費目があります。一つは、1,000スタジオの空荷分の雇船料についてのもの。もう一つは、上記ベルナルディとの係争で弁護してもらうために支払った、経費についてのものです。この係争では、[我々に]不利な判決ができましたが、そのことについては、貴方がたに書き送った私の手紙を熟読していただければ、この非人間的な男から身を守れるような状況ではなかった[ことがお分かりでしょう]。さらに、派遣した積荷監視人、ブリガンティーン、飛脚の経費もありますが、これらについては、上記ベルナルディは、ビター一文も支払う気がありませんでした……。

(1989年10月11日 受理)